



## パンドラの箱

ひとさじの会 代表 高瀬顕功



私たちは一年たってもいまだ新型コロナウイルスの影響を大きく受けています。残念ながら、その影響は、これまでギリギリで踏ん張っていた人たちにより厳しく現れました。頼る人が少なく、立場の弱い人たちほどより

深刻な状況におかれています。

弊会とご縁の深いつくりの東京ファンドの稲葉剛代表は、このコロナ禍を「パンドラの箱を開けてしまった」と表現しました。コロナ禍によってこれまで見過ごしてきた社会の脆さや危うさが露見したということです。ひとさじの会の問い合わせフォームにも、「生活できない」「このまま死ぬしかないのか」という悲痛な叫びが何件も寄せられました。ひとさじの会始まって以来のことです。

振り返ってみますと、昨年は4月から6月まで配食の回数を毎週に増やしたり、在日ベトナム人へ施米支援を行ったり、これまで以上に活動を活発にした一年でもありました。同時に、活動方

# おにぎり通信

No. 06

ひとさじの会ニュースレター 2021

2021年6月10日

発行：社会慈業委員会（ひとさじの会）

〒111-0022 台東区清川 1-8-11 光照院内

hitosajinokai@gmail.com

http://hitosaji.jp

### 目次

- 1頁 パンドラの箱
- 2頁 令和2年度の活動報告
- 3頁 【報告】在日ベトナム人への緊急施米支援プロジェクト
- 4頁 滋賀支部活動報告
- 5頁 法務省委託事業シンポジウムへの登壇
- 6頁 令和3年度の活動予定 震災のご縁からボランティア募集の休止について
- 7・8頁 決算報告 支援協力御礼

法の見直しを迫られた一年でもありました。これまで、大人数で炊事をして、コースごとグループでおにぎりをお配りしていましたが、その方法は変えざるを得ませんでした。密を避けるためボランティアの募集は停止し、都内在住の限られたメンバーで夜回りをすることにし、その措置は現在も続いています。

現在も「参加したい」というありがたいお声をいただいておりますが、すべてお断りしている状況です。かくいう私も都外在住のため参加を自粛しています。当初は、代表でありながら…と忸怩たる思いでいましたが、今は活動を支えてくれる仲間を信じ、お任せしています。活動にかかわる者が感染しないことが、路上の方の生命を守ることにもつながります。みなさまも、まずはご自身の健康を第一にお考えいただき、来たるべき時にお力をお貸しいただければ幸いです。

さて、ギリシャ神話では、パンドラの箱から最後に出てきたのは「希望」でした。コロナ禍という災難が過ぎ去った後、私たちの社会にはどんな「希望」が残されるのでしょうか。期せずして露見した社会の歪みに目を向け、多くの人に慈しみの心が育まれることを願ってやみません。合掌

## 〇令和2年度の活動報告

吉水岳彦

### 〇炊き出し・夜回り支縁

- ・ 期間：令和2年4月1日～令和3年3月31日
- ・ 開催日数 38回(原則として毎月第一・第三月曜日)
- ・ 配食数(お弁当) 5040個
- ・ マスク 25200枚
- ・ 寝袋配布数 80個 他団体に60個寄附

新型コロナ感染拡大を抑止するために令和2年4月から発出された緊急事態宣言の影響は、路上生活者への炊き出し等を行う団体の活動休止を促し、路上に暮らす方々が食事を得る機会の減少をもたらしました。そのため当会は、活動者から路上に暮らす方々に新型コロナを感染させないように細心の注意を払いながらも、食事の提供回数を増やし、消毒液やマスク等の感染予防対策用品を配布することにいたしました。具体的には、大人数でおにぎりを作って配るのをやめて、お弁当を購入して最小限の人数で配るといように活動形態を大幅に変更しました。また、ボランティアの募集を停止し、活動現場近郊から通えるスタッフ数名のみで運営を続けるようにいたしました。

緊急事態宣言が明けて、多くの路上生活者支援団体の活動が復旧する4月から6月末まで毎週夜回り配食を続け、その後、活動日数はもと



お配りしているお弁当やマスクなど

の月2回に戻しました。しかし、活動形態は、これまでと同様、感染予防に細心の注意を払い、弁当の購入配布と感染予防用品等を配布するにとどめました。

また年末には、新型コロナ禍で大変ななかにもかかわらず、在日の台湾・ベトナム両国の仏教徒たち、及び国内のキリスト教徒の方から多くの寝袋の寄付を頂戴しました。例年と違い、大人数での配布というわけにはいきませんでした。浅草・山谷・上野地域と新宿地域にて今年も寝袋を配布することができました。この場をお借りして、みなさまに深く御礼を申し上げます。



夜回り配食数 (昨年度比)

## ○葬送支縁

- ・納骨供養 4 件（11 柱）
- ・葬儀 1 件
- ・法事 2 件
- ・棚経 2 件
- ・墓参 3 件

令和2年3月以降、新型コロナ禍のために多くの行事やイベントが中止となるなか、当会の葬送支縁も、高齢の方が多く参加するお盆の法要や、飲食を伴う合同法要、大勢の人が集う夏祭りの法要などは取りやめることになりました。また、納骨供養や法要などについても、少人数で感染対策をしたうえで行いました。団体によっては、納骨に参加できない方々が手をあわせられるように、故人の写真を団体の入口に飾るなどの工夫をしたところもあります。亡き大切な人を想うことは、生きる上で大切な支えになるものです。親しい人のお見送りを、多くの人と共に安心してできる日が来ることを願わずにはいられません。

## ○施米支縁

- ・ひとさじの会が受け取った施米：約 1900kg
- ・ひとさじの会が他に届けた施米：約 2175kg

この他、お菓子類、果物缶、新玉ねぎ、餅、タケノコ、みかん、しょうゆ、みそ、海苔、マスク、使い捨てカイロ、タオル、洗濯石鹼等も頂戴し、台東区の子育てを支え合うネットワークや在日ベトナム仏教信者会等、他の団体と共有しています。

令和2年度も、全国の浄土宗寺院からお米がひとさじの会に届けられました。また、この活動を理解して応援くださる全国の個人や団体、諸宗派の寺院様や檀信徒様よりお米を頂戴しています。例年と異なり、当会の夜回り配食の形態が変わったため、そのお米を当会で配布するおにぎりに使用することはできませんでした。しかし一方で、こども極楽堂におけるフードパントリーにお越しになる方々や母子支援施設等の利用者たち、困窮する在日ベトナム人など、「食」を必要としている方々にお届けをさせてい

ただきました。

困窮する在日ベトナム人への緊急施米支縁についての詳細は、以下の報告をご覧ください。

また、滋賀支部では、新型コロナ禍で困窮するご家庭に対して、フードバンク活動とフードパントリーを活発に行っています。活動の詳細については、4 頁にある「滋賀支部活動報告」をご覧ください。

いずれの地域においても新型コロナ禍の影響から困窮する人が増加している現在、引き続きこのような食の支縁は欠かせないものだと思います。全国からの継続的なお米や食品のご提供に感謝するとともに、今後も変わらぬご協力を賜れますようお願い申し上げます。

## ○【報告】在日ベトナム人への緊急施米支縁プロジェクト

高瀬顕功

在日ベトナム仏教信者会との交流を通じ、ひとさじの会にはこれまで多くの在日ベトナム人ボランティアが活動に参加してくださいました。また、第一月曜には、ベトナム風揚げ春巻きを調理してくださり、配食に新たなメニューを加えてくださるなど、多くの支援をいただいていた。現在、日本で暮らすベトナム人は約 42 万人とされていますが、とくに、ここ 10 年での増加は著しく、そのほとんどが、留学生や技能実習生として来日した若い世代の方々です。

このコロナ禍で、仕事を失った外国人技能実習



大恩寺様へお贈りした 5 トンのお米

生もいます。帰国する予定だったのにいまだ帰れない留学生もいます。こうした状況を在日ベトナム仏教信者会・大恩寺住職である釈心智師から伺い、せめて食だけでも支援できないかと、昨年9月までに10トンのお米をひとさじの会からお贈りいたしました。さらに、「在日ベトナム人への緊急施米支縁プロジェクト」と銘打って、お米を贈るための寄付を広く募ることにいたしました。

おかげさまで、**9月22日から3月31日まで、のべ229名の方から合計6,223,840円**のご寄付を賜りました。そして、このご寄付を元手に、埼玉県本庄市大恩寺様へ10トン、兵庫県姫路市大南寺様へ5トン、愛知県稲沢市福慧寺様へ5トン、計20トンのお米をお贈りさせていただきました（この三カ寺は在日ベトナム寺院で、日本にいるベトナム人の支援拠点となっています）。

みなさまのお気持ちが大きな支援の形となりましたこと、心より感謝申し上げます。このプロジェクトの詳細については、HPにまとめてございますのであわせてご覧いただければ幸いです（<https://www.hitosaji.jp>）。

さて、私たちが日本にいるベトナムの方々へ心を寄せているのは、ひとさじの会として直接的な関わりがあるのももちろんですが、それだけでなく特定技能実習生などで来日している外国人労働者への構造的な問題が、路上生活者へのそれと非常に似通っているところにもあります。

現在、技能実習生がいなければ農業や漁業は成り立たないと言われていています。特に、技能実習生に占めるベトナム人の割合は41.6%と最も多く、第一次産業を支える重要な担い手になっていると言っても過言ではありません。私たちがコンビニで買うおにぎり一つとっても、米の生産から中身の具材の加工に至るまで、多くの部分で技能実習生の力を借りているのかもしれませんが、しかし、目に見えない労働の裏側で、技能実習という名の搾取が横行していることも事実です。

日本語は喋れるけど堪能でない。日本の法律に疎い。職場での立場が弱い。様々な理由が考えられますが、こういった、情報の非対称性や言語スキル、社会的立場の弱さなど、私たちが普段かかわっている路上の方々とは重なり合う部分が多くあります。

かつて、彼らの多くは体を資本とし、高度経済

成長期の日本の建設現場を支えてきました。しかし、バブルの崩壊、労働者自身の高齢化や現場の機械化など、活躍の場が失われていきました。路上に取り残された方々の中には、貧困ビジネスによる搾取の対象となり、生活保護費をピンハネされていた経験を持つ人も少なくありません。「あんなところで生活するくらいなら路上の方がまだましだ」と言う方にもしばしば出会います。私たちの幸せが誰かの不幸せの上に成り立っているのだとしたらそれは悲しいことです。そして、それに対して無自覚でいることも、見ないふりをしていることも、また悲しいことです。

「在日ベトナム人への緊急施米支縁プロジェクト」は、単に生活に困窮した外国人支援ではなく、社会の中で苦しい立場におかれたあらゆる人たちに思いを寄せるきっかけに過ぎません。私たちの思いを汲み取って、このプロジェクトに多くの方がご賛同してくださったこと大変うれしく思います。お気持ちをお寄せいただいた皆様にあらためて感謝申し上げます。

## ○滋賀支部活動報告

ひとさじの会滋賀支部長  
フードバンクびわ湖理事長  
曾田俊弘

昨年度は、コロナ禍の中、感染防止に万全を期しながら、フードバンクびわ湖（以下、FBB）の活動に専心没頭しました。

5月末に滋賀県内小中学校一斉休校が解除されるまでは、前号でご紹介した、各市給食センターから食材を引き取って生活困窮世帯や福祉施設等に届ける「給食ロス活用プロジェクト」に取り組みました。

プロジェクト終了後は、「フードドライブ」（余剰食品の持ち寄り）の普及推進と「フードパントリー」（食品配布会）の開催に全力を傾注しました。

手軽に取り組める地域貢献活動としてフードパントリーの開催を働きかけたところ、多くの企業・団体（県庁・生協等）・地域（まち協・自治会等）が賛同、実施して下さり、たくさんの方

食品をお寄せ下さいました。

滋賀教区浄土宗青年会様も寺院版フードドライブ「おうみ米一升運動」に寄せられた浄米 1.87 t を FBB にご喜捨下さいました。また FBB の活動に共感して下さった多くの個人様が直接 FBB まで食品を届けて下さいました。

このように、多くの方が「もったいない精神」を発揮し、フードドライブにご協力下さったお陰で、県内 8 市で、各市社会福祉協議会・市役所・子ども食堂等と連携しながら 14 回にわたる「フードパントリーツアー」を開催し、コロナの影響で仕事が減り生活困窮に陥った方々に食品を手渡すことができました。

どのフードパントリーの会場も、市社協・市役所の職員の方々やボランティアの方々や FBB のメンバーと来場者の方々との間に「和顔愛語」が行き交う温もり溢れる空間となりました。このような場の創出に携われたことに名状し難い感動を覚え、場づくりを支縁して下さった方々への感謝の念で一杯になりました。

12月27日には、私が住職を務める浄福寺で、甲賀市・湖南省在住の外国人世帯（中国・ブラジル）を対象とした歳末フードパントリーを緊急開催し、24世帯に食品をお渡ししました。喜色満面で食品を受け取られるお母さんや子どもさんたちの様子を目の当たりにして、無上の喜びを感じました。

『フードバンクという挑戦』（岩波現代文庫）というご著書の中で、私のフードバンク活動の原点である「おうみ米一升運動」を紹介して下さった大原悦子先生が、「アメリカでは教会が

パントリー（食料倉庫）の役割を果たしているように、日本でもお寺のパントリーが今後ますます重要な役割を果たしそうだ」と、寺院のパントリーとしての役割に期待を寄せて下さっていますが、そのご期待に応える第一歩を踏み出した喜びと満足感に浸りました。

今後は、自坊浄福寺において、パントリーとしての役割は勿論のこと、現在試行中の「日本語学習支援教室&子ども食堂」を発展させ、地域の「子どもの居場所」としての役割を担うべく精進していく所存です。

### ○ 法務省委託事業 震災と人権に関するシンポジウム ～避難所で必要とされる人権への配慮～ への登壇

2021年1月31日に開催されたシンポジウムにおいて、当会事務局長吉水は「災害避難所における『いのちの選別』の問題」というテーマで発題を致しました。内容は、2019年10月の台風19号東京通過時に起きた、いわゆる「ホームレス避難所拒否問題」についてです。これは、大型台風から身を守ろうと避難を求めてきたホームレス状態の人を、東京都台東区の避難所が受け入れを拒否した問題です。この時、台東区の災害対策本部は、災害時において、生活形態などから「守る価値のある命かどうか」を判断しました。その結果、ホームレス状態の人は大型台風の猛威の中に放り出されたのです。この問題は「いのちの選別」が公的に行われたとして、国内外のメディアで大きく取り上げら



滋賀支部 浄福寺フードパントリーの様子



令和2年度法務省委託事業「震災と人権に関するシンポジウム」

オンラインシンポジウムの様子

れました。

その後、台東区とホームレス状態の人を支援する複数の団体によって、避難所の在り方について話し合いが行われました。この話し合いによって、情報弱者であるホームレス状態の人に、災害前に避難場所等をチラシで通知することになりました。また、当然のことながら、全ての避難所で受け入れることが決まりました。そして、ホームレス状態の人が気兼ねなく居られる避難場所が、2か所設けられました。ただしそれは、避難所と違って一時的な「避難場所」に過ぎず、必要な飲食や衣服の提供等はできない点など、課題はまだ多くあります。

一方で、上野で活動している団体「あじいる」メンバーが、ホームレス状態の方々に聞き取り調査を行ったところ、多くの方が、一般の人たちと同じ避難所に行きたくないと思っていることも分かりました。これは、日頃から差別的な眼差しを向けられていることへの不快感や恐怖からくるものでしょう。この点も、今後の災害時にどう避難をしていただくのが良いかを考える上で大切な課題です。

災害時における平等な支援とはなんのでしょうか。行政から一律に提供されるものは本当に「平等」なのでしょうか。避難者に情報や生存状況に著しい格差があった場合、柔軟に対応すべきです。命を守るという「結果の平等」について、私たちはよく考えておく必要があるのでしょうか。

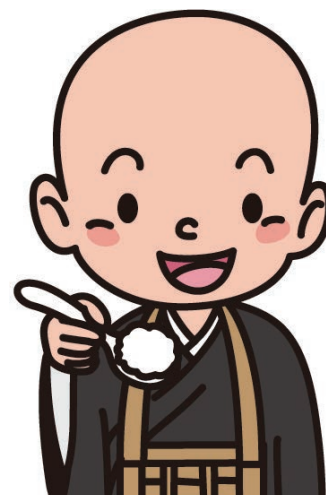
人権教育啓発情報誌「アイユ」より抜粋

## ○令和3年度の活動予定

炊き出し・夜回り支縁は、例年通り、月2回（原則第一・第三月曜日）に行います。開催予定日は下記のようになります。

**令和3年** 4/5、4/19、5/3、5/17、6/7、6/21、7/5、7/19、8/2、8/23、9/6、9/27、10/4、10/25、11/1、11/15、12/6、12/20、**令和4年** 1/10、1/24、2/7、2/21、3/7、3/28

※今年度も新型コロナの感染リスクが著しく下がりに、危険がないと判断される状況になるまでは、ボランティアの募集やお寺での炊き出しは行わず、購入した弁当とマスク等を最小限の人数で配布します。



## ボランティア募集の休止について

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、ボランティアの皆様が現場に集まってのご支援を、お断りしております。しかしながら、2021年5月現在、コロナ感染の状況は思わしくなく、以前のように皆様がつどい活動するというわけにはいきません。

共生の<sup>ともいき</sup>ところを基本理念として活動する私たちが感染し、仲間や、ましてや支援の対象とする路上生活者の方々に感染を広めるわけにはいきません。

今は集まらない・接触しないことが、最上の支援であると思っただき、引き続きのご支援ご協力を賜れたらと存じます。

感染状況が良くなり、炊出しを再開できるようになった際には、改めてご連絡いたします。その際には、またご協力のほど、何卒よろしくごお願い申し上げます。

## ○震災のご縁から

およそ10年前の東日本大震災では、ひとさじの会も避難所での炊き出しや仮設住宅におけるお楽しみ会などを、無我夢中でさせていただきました。「支援」と呼べるようなことはできていなかったと思います。しかし、10年の交流のうちに、震災がご縁で出会った方々には、友だちの1人に加えていただくことができました。いま思うと、それが何よりの宝物だと感じます。昨年3月以降、コロナ禍の東京の困難を聞きつけた、大船渡市に住む復興公営住宅「川原アパート」のみなさん、「タケノ文具」さん、「天使の森」さんなどが、東京の路上で暮らす人たちに必要なマスクや鉛玉、使い捨てカイロなどを集めて送ってくださるようになりました。毎月のように届く物資には、応援の言葉や思いやりのこもったメッセージが添えられていて、最初の緊急事態宣言発出時のようなつらいときには、その一つひとつが本当に嬉しく、励まされました。

ひとさじの会では、活動当初から「支援」ではなく「支縁」という言葉を使ってきました。それは、やがて「支え合える縁になる」ということを目指すものであったからです。災害でも貧困でも、出会う困難を抱えた人たちは「ずっ

と助けが必要な人たち」ではなく、たまたま、いまは災害などの困難な状況を生み出す諸要因が重なっているだけで、人としては私たちとなんら変わることがない方々です。あくまでも、困っているのは「状態」に過ぎません。状況が変化してゆけば、手助けを必要とするのは、逆さまに、自分たちになるのかもしれないのです。コロナ禍では、まさにたくさんのご支縁を大船渡のみなさまから賜ることになりました。上記の公営住宅の住人やお店の人たち以外にも、岩手県気仙地域で出会った多くの方々や、宮城県石巻や仙台のみなさま、熊本地震で知り合った心優しい方々からも、一年にわたるご支縁をいただいています。

このように、お互いに大切に想い合える関係性をいただけることは、誠に幸せなことに思います。コロナ禍は、けっして喜ばしいことではありませんが、善き人に出会い、つながっていることの喜びは、こうした厳しい状況に於いて強く感じさせられるものなのかもしれません。ここには書ききれませんが、私たちと「支え合えるご縁」を結んでくださった多くのみなさまに、この場をお借りして深く感謝を申し上げます。本当に本当にありがとうございました。

### ○令和2年度 寄附寺院・団体（順不同敬称略）

（公財）浄土宗ともいき財団、（一財）太田慈光会、立正佼成会台東教会、水戸基督友会、寺子屋カフェ、テラネット（真福寺）、きぼうのいえ、（有）川本商店、回向院（墨田区）、天龍寺（礼文町）、乗蓮寺（板橋区）、光専寺（武蔵野市）、來運寺（天童市）、玄向寺（松本市）、引接寺（那珂市）、善光寺（松戸市）、心行寺（江東区）、観智院（港区）、泉福寺（江戸川区）、誠心院（台東区）、心光寺（いわき市）、寶蓮寺（栃木市）、浄念寺（桶川市）、照光院（江東区）、常念寺（仙台市）、西門寺（足立区）、向谷寺（山形市）、妙定院（港区）、安養寺（いわき市）、浄土寺（陸前高田市）、蓮華寺（国東市）、福泉町（甲賀市）、戒法寺（品川区）、正光寺（北区）、妙雲寺（益田市）、圓通寺（江東区）、慶岸寺（横浜市）、定泉寺（文京区）、感応寺（世田谷区）、大王寺（春日部市）、長伝寺（港区）、常行院（松戸市）、妙長寺（河内長野市）、今濟寺（西尾市）、法学寺（長野市）、極楽寺（福山市）、實相寺（本庄市）、大長寺（鎌倉市）、法源寺（富士市）、良心寺（横須賀市）、実性寺（足立区）、成覺寺（仙台市）、雲上寺（塩竈市）、満藏寺（いわき市）、大雲寺（江戸川区）、西蓮寺（米沢市）、愚鈍院（仙台市）、成願寺（田村市）、妙慶院（広島市）、光明院（流山市）、法城寺（碧南市）、安楽寺（野洲市）、慈恩寺（仙台市）、寶隆寺（余市町）、西念寺（二本松市）、一向寺（佐野市）、浄土院（山形市）、浄念寺（村上市）、安養寺（江戸川区）、西生院（水俣市）、北泉岳寺（砂川市）、照光寺（栃木市）、雲龍寺（鹿沼市）、大念寺（大槌町）、楽宝寺（蓬田村）、來迎寺（八戸市）、浄土寺（港区）、一行院（文京区）、極楽寺（八王子市）、善教寺（川崎市）、浄延寺（いわき市）、無能寺（桑折町）、阿弥陀寺（青森市）、専念寺（鶴岡市）、浄土寺（小樽市）、龍華寺（鳥栖市）、見性寺（山形市）、本誓寺（江東区）、長安寺（渋谷区）、天長寺（島本町）、最勝院（港区）、生西寺（文京区）、大道寺（大阪市）、弘経寺（結城市）、安養寺（大分市）、常照院（村山市）、瑞泉寺（台東区）、西福寺（厚木市）、宝幢寺（七尾市）、菩提院（いわき市）、莊嚴寺（取手市）、観音寺（横浜市）、正福寺（東近江市）、明國寺（松江市）、大徳寺（仙台市）、真行院（台東区）、大蓮寺（川崎市）、大念寺（松前町）、地藏寺（有田市）、真勝院（葛飾区）。

※ひとなべ会員10人、ひとはち会員117人、ひとさじ会員46人でした。この他、個人様からのご寄付も頂戴いたしました。ご支援下さったすべての方に深く感謝を申し上げます。

合掌

## 令和2年度決算報告

自 令和2年4月1日  
至 令和3年3月31日

(単位:円)

## 収入の部

科目	項目	細目	予算額	決算額	差異	備考
賛助金	賛助金		2,000,000	8,299,000	▲ 6,299,000	会員及び正規会員の賛助金、並びに諸団体の賛助金(太田慈光会40万円)匿名寄附(200万円)含むの合計
	事業協力金		480,000	480,000	0	(公財)浄土宗ともいき財団より助成金として48万円
	合計		2,480,000	8,779,000	▲ 6,299,000	
その他	雑収入		10,000	5	9,995	銀行口座利息
	繰越金		3,428,569	3,428,569	0	前年度繰越金
	合計		3,438,569	3,428,574	9,995	
総計		5,918,569	12,207,574	▲ 6,289,005		

## 支出の部

科目	項目	細目	予算額	決算額	差異	備考
事業費	炊き出し費	食材	1,300,000	1,698,562		お弁当(¥1650667)、アメ(¥41765)、おにぎり(¥6130)
		医薬品		143,271		医薬品
		配布物		249,378		下着類、寝袋(¥180500)、カイロ、交通費等
		消耗品等		60,395		ポリ袋、体温計など
	合計		1,300,000	2,151,606	▲ 851,606	
	研修会費		150,000	0	150,000	
	活動推進費	企画製作費	300,000	198,024	101,976	ホームページ、おにぎり通信、出版積立金(¥150000)等
	設備費	倉庫等	700,000	625,425	74,575	炊き出し会場賃貸費((公財)浄土宗ともいき財団の助成金から支出)光照院へ消耗品費
	提携事業費		300,000	100,000	200,000	祈りの道助成金(¥100,000)
	交通費補助費		300,000	16,100	283,900	夜回り時の交通費
特定活動費		1,300,000	1,447,480	▲ 147,480	在日ベトナム人支援米(支援金募集前)	
合計		4,350,000	4,538,635	▲ 188,635		
管理費	人件費		600,000	447,114	152,886	給与(月4万円+交通費)
	事務費		220,000	80,125	139,875	事務用品、会計庶務費
	通信費		100,000	76,278	23,722	郵送料等
	会議費		100,000	0	100,000	理事会会議費等
	雑費		50,000	38,309	11,691	手数料
合計		1,070,000	641,826	428,174		
予備費		498,569	0	498,569		
総計		5,918,569	5,180,461	738,108		

総収入	12,207,574
総支出	5,180,461
次年度繰越金	7,027,113

## 浄米・物資寄付並びに活動協力寺院・団体(順不同敬称略)

西生院(水俣市)、玉圓寺(堺市)、海禅寺(金沢市)、明国寺(松江市)、林昌寺(春日井市)、東京佛光山寺(板橋区)、西蓮寺(米沢市)、高善寺(邑南町)、大念寺(松前町)、円宗寺(鞍手町)、真行院(台東区)、浅草聖ハネ教会(台東区)、慈恩寺(仙台市)、西光寺(石巻市)、大林寺(稚内市)、来運寺(天童市)、宗圓寺(台東区)、玄向寺(松本市)、東光寺(板橋区)、善光寺(松戸市)、西念寺(二本松市)、正定寺(古河市)、正覚寺(古河市)、大翁寺(境町)、泉水寺(富津市)、大善寺(八王子市)、照光院(江東区)、浄土寺(港区)、照光寺(栃木市)、法徳寺(世田谷区)、良心寺(横須賀市)、延命寺(取手市)、天然寺(木島平村)、大雲寺(江戸川区)、莊嚴寺(取手市)、法源寺(富士市)、長昌寺(杵築市)、浄土寺(香取市)、浄土宗務庁、在日ベトナム仏教信者会、仏教伝道協会、随縁禅室、淑徳与野中学・高等学校、シンママ熊本応援団、株式会社縁の木、つくろい東京ファンド、もやい、ピッグイシュー基金、山友会、台東区の子育てを支え合うネットワーク、あじいる、山谷労働者福祉会館、下町グリーンサポート響和国、タケノ文具、大船渡市川原アパート、大船渡市天子の森、マイトリヘルプサービス、医療ガバナンス研究所、東京慈恵会医科大学付属病院、ライスセンターひまわり、国境なき医師団日本、株式会社ヨック・モック、キーン・ジャパン合同会社、ゴスペルスパークル、Tokyo Borderless TU、株式会社旭堂、KDDI株式会社、D-SHIPs 32、株式会社八大、学生団体 Joint Kinship。

この他、多くの個人様からのご寄付も頂戴いたしました。ご支援下さったすべての方々に深く感謝を申し上げます。

ひとさじの会代表 高瀬頭功拝